

平成26年度第6回長野市公共施設適正化検討委員会 議事録	
開催日時	平成27年3月27日(金) 13:30~16:30
場 所	長野市役所第二庁舎 10階 会議室19
出席者	[委員] 松岡委員長、神田副委員長、太田委員、片山委員、清水委員、中屋委員、西堀委員、西村委員 [事務局(行政管理課)] 寺田総務部長、竹内行政管理課長、丸山総務部主幹兼公共施設マネジメント推進室長、小林行政管理課長補佐、大塚行政管理課係長、唐木田行政管理課係長、上條行政管理課主事
議 事	1. 議 事 (1) 長野市公共施設マネジメント指針(素案)について ・基本的な考え方について

傍 聴 者：2名

【次 第】

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議 事  
審議事項  
(1) 長野市公共施設マネジメント指針(素案)について  
・基本的な考え方について
- 4 その他
- 5 閉会

【開 会】

委員長あいさつ

〔松岡委員長からあいさつ〕

議 事

(1) 長野市公共施設マネジメント指針(素案)について

〔資料により、第3章 基本方針について、事務局より説明〕

委 員 長 学校教育施設、生涯学習・文化施設について、質問、意見など、ございますか。

委 員 地域コミュニティの核となる施設の位置付けがわからないのですが、どのように考えているのでしょうか。何のためのコミュニティ施設なのかという部分をもう少し明確にしたほうがいいと思います。

事 務 局 小学校をコミュニティの中核に据えていきたいという考えです。地域コミュニティの性格を持っている小学校に関しては施設の規模が大きいため、そこへ機能を移転し、機能を集中させていくというイメージです。

委員長 学校であれば教育の要素が強く、地域でいろいろ話し合ったりしていかなければ決まっていけないのではないかと思います。ですから、今まで果たしてきた、あるいは、当初建設された施設の役割を整理しておく必要があるのではないのでしょうか。

事務局 全て一律というわけではなく、地域の実情を考慮して、小中学校に施設を複合化していきたいという方向性ですので、地域の実情を調査、研究し、整理をしていきたいと思えます。

委員 公民館としての用途で使っているものでも、学校に入れないものもあるかもしれません。ですので、学校をコミュニティの核として、こういった方向に進めていくのかということをもう少し整理するようにしたほうがいいと思えます。

事務局 活気あるコミュニティをどう維持していくかということが大切になりますので、第五次総合計画、都市マスタープラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略、人口減少ビジョン等との連携を図っていきます。

委員長 どんな人がどんな使い方をして、その施設が無くなるとどうなるのか、小中学校へ機能移転できるかということも考えなければならぬので、どこかでそういった整理をしておく必要があると思えます。

事務局 方針が決まりましたら、個別施設に関して、分析評価を行い、それぞれの施設の整理をしていきます。例えば、利用状況と老朽化などを4区分に分けて、分類整理を行い、向こう10年間のアクションプランみたいなものを作っていきたいと考えています。

委員 本日の審議は、個別施設の検討に入っていく前の基本的な考え方をとりまとめた公共施設マネジメント指針の審議だと思えます。

今後、個別の施設に入っていく前提として、定量目標を基本方針の中に、もう一步踏み込んで、記載してもいいのではないかと思います。

委員長 定量目標というと施設総量の20%削減ですが、地域と連携していく中で、今後どうしていくかというのはこれからなのですよね。

委員 全体に言えることですが、費用対効果という視点の中で、施設の運営をどうするかという部分は必要だと思えます。ですので、ランニングコストなどを常に念頭に置きながらまとめたほうがいいと感じます。

また、公民館は貸館という言い方になってしまっていますが、地域に根差した施設で、公民館の果たす機能は多いと感じます。

事務局 公民館は朝から晩まで全て講座などをきっちり入れているわけではありませんので、空いている時には違う使い方もあります。ですので、公民館を独立して作っていくという必要性があるのかどうかを含めて、総量を縮小していく上での方向性という形でご理解いただければと思えます。

委員 市の考え方が明確に出ていない部分、市がやらなければならないことをもっと載せてもらいたい気がします。

事務局 現在、総合的なまちづくりについて、第5次総合計画の改定を行っています。大きな方向性ということに関しての議論は、これから行っていかなければならないと思いますが、その計画を待つというわけにはいきません。基本的には公共施設白書でも示したとおり、現状の公共施設を維持していくことは不可能であることからスタートしていますので、この段階でそこまで含めて書くことは難しいと思います。

委員 基本的な市の考え方というのは書けないのでしょうか。観光・レジャー、産業振興は大切ですので、ただ建物だけで判断していいのだろうかと思います。

事務局 産業振興施設というのは、これからの人口減少対策、中山間地の振興などが関わってきますので、そういったものと連携していくという趣旨で施設分類の方向性を記載しています。

委員長 今のところ、そのくらいの記載しかできないですね。

事務局 これから作成する施設の再配置計画の冒頭で、そういった考え方について、触れていければと思っています。

委員長 短い言葉でそこに書いておいて、自分たちの手足縛って、出来にくくなるより、緩やかな表現にしておいて、地域の特性に合わせてやっていかざるを得ないというところなのではないかと思っています。

委員 地域の特性に合わせることは基本だと思いますが、リードしていくというのが、大きな行政の役割でもあると思います。影に隠れ気味なのがインフラだと思うのですが、インフラこそある意味で大事で、検討の方向性というのは、技術的な部分での工夫、長寿命化を進めるという理論になっていて、これでは絶対に縮減にはならないはずです。ですから、将来的な地域づくりをする中で、インフラ施設の縮減まで記載しても問題ないのではないのでしょうか。

委員長 そこまで書けると大変いいのですが、そこまで決まっていないので、記載するのは無理でしょう。

今までの意見をまとめると、公民館活動の役割はそれぞれあるので、それを整理して小中学校への統合の見通しをつけていけばいいのではないかという話だったと思います。

それでは、観光・レジャー施設、産業振興施設についてはいかがでしょうか。

委員 箱物だけではなく、観光・レジャーの関係は市の指針などに沿ったソフトのほうが大切ではないかと思います。

長野市では、いろんなことを体験できるので、観光であればそういうところをうまく表現できればと思います。

委員長 そういった良さを生かすために、ハードの集中や多機能化を考えたかどうかということですね。

委員 土いじりなどもやりたいけれども、どうやっていいのかわからないからやれないとか、そういったことを簡単に出来る風土を作っていただいたり、行くまでが遠いイメー

ジが先行してしまうので、遠い場所でも近く感じる方法があればいいのですけれども。

委員長 行った時の受け皿を作っておかなければということも含めてですね。

委員 長野市は、自然が売り物なので、そこを生かして、ソフトという部分の取り組み方をどうするかという部分だと思います。

温泉保養・宿泊施設については 30 年を経過している施設が全体の 30%を超えています。ハードの考え方として、もう一度リノベーションをしていくのか、PFI 等の手法で再スタートするのか、この部分の見極めが必要だと思います。その中で、大事なのは不採算だから廃止するというのではなく、ソフト、ハードの両面から検討して、検証しておく必要があると思います。

委員長 建物を建て替えるといった場合に、長野の良さをどうやって引き継いで、その次も良くしていくか、受け皿としての観光・レジャー施設をどうしていくかという話になると思います。その時に廃止するのか民間へ払い下げるのかといった、いろいろな方法が出てくると思います。

委員 ちょっとした改修であれば問題はないのですが、築 30 年となれば、小手先の改修では済まなくなり、大きな費用が必要になってきます。財政負担が大きくなり、民間委託、もしくは PFI で民間に移譲するということになれば、費用対効果の検証はしておかざるを得ない気がします。

委員長 他にこの表現や中身で、文章を加える、あるいは削るなどのご意見はありますか。

委員 海外の人を呼び込むような観光・レジャーの戦略みたいなことがあれば。

委員長 今後 30 年、40 年の観光・レジャーのあり方を予想して、建て替えや改修を考えていく必要があるという表現はどこかに入れてもいいかもしれません。

事務局 利用率が低い施設に関しては施設の運営などの改善して、外国人の方に PR するなど、いろいろな手立てを立てて、手を尽くしてもダメであれば、用途転用や廃止の検討をしていくという内容を記載しています。

委員 基本的には民間で出来ることは民間でという考え方だと思います。行政でそこまでは行えないと思います。

委員長 税収が右肩上がりの時はできたのですが、人口減少ないし、社会情勢が変わってくるので、それに対応していくということです。観光・レジャー施設で、ソフトとハードと両方の面でヒントやこれからの方向性の話がありました。

それでは、体育施設についてはいかがでしょうか。

委員 長野市はテニスコートが非常に多いですね。全て埋まっているのでしょうか。

事務局 やはり、土、日、祝日に利用者が集中します。平日は全て埋まっているわけではありません。

委員 長野市のプールは全国の中核都市と比較しても長野市は多いので、学童を中心にした水に親しむという考え方であれば、プールについては一考いただきたいと思います。  
教えていただきたいのですが、土日の小学校、中学校のプールの解放というのは、難しいのでしょうか。

事務局 学校敷地内にある小、中学校のプールで、夏休み期間を除いて、あまり使われていないという現状ではあります。

委員 学童の体育の向上、あるいは、競技者の技術向上という、いろんな問題を公営プールは考える必要がありますが、現実的に減らしていいものなのでしょうか。

事務局 他都市の状況等でいえば、民間のスイミングスクールを活用しています。屋外のプールは約2ヶ月間の稼動になりますので、従前どおりに施設を維持して、水泳の授業を行うということを転換して考えていくということが、施設の総量を縮小していく上では1つの大事なキーポイントになると思います。

千葉県佐倉市は基本的には小、中学校のプールは老朽化したら直さない、作らない、廃止するという事で、市内のスイミングスクールの施設を授業で使うという方針を打ち出しており、学校のプールを廃止することに関して、佐倉市では反対がほとんど無かったようです。

そういったことから、学校のプールを開放するという考え方ではなく、学校での授業を民間の施設で行うということも一考する価値があるのではないかなということ、プールのあり方についても、相対的に考えていきますということを記載しています。

委員 受益者負担を見直すと記述があるのですが、受益者負担を増すことはやむを得ないし、そうするべきだとは思いますが、わずかな金額を徴収するために、徴収する職員を増やすほうがお金が掛かってしまうという部分を考えた時にそれがいいのだろうかと思いますが、どうなのでしょうか。

事務局 お金を取るという事務が発生することによって、人件費やシステムなどを含めた費用対効果でいくと、利益が出ないこともありますので、有料化の方向ではあります、総合的に検討していきたいと思っています。

委員 宣伝などを積極的にやれば、かなり利用率が高まると思います。利用率を高め、若い子のクラブ活動とお年寄りがいっしょに体育館を分け合って使うという中で、新たなコミュニティが生まれてくるかもしれません。

委員長 そのようにできれば、子どもたちもお年寄り見て、いろんなことを学ぶのではないかと思います。  
それでは、保健福祉施設についてはいかがでしょうか。

委員 これだけ社会保障費が増えて、ショートステイからデイサービスからソフトの部分まで機能が充実してくると、総量的に減らすのであれば、こういうところほど、ある程度減らしてもいいのではないかと思います。健常者老人はこれに代わってスポーツクラブなどを用意すれば、代替措置はとれるのではないかという気はするので、この分野は重点部分だと思います。

委員長 福祉施設の役割をはっきりさせていく時期なのかもしれません。要介護や要支援の方が使う施設と老人憩の家は同じ考えというわけにはいかないでしょうし。

事務局 少子高齢化ということで、高齢者の方が増えると、老人憩の家の利用率も右肩上がりでもいいと思いますけれども、実際には利用率が下がってきています。これはどういうことかということ、そこだけを利用するというのではなく、余暇を楽しむいろんな選択肢が広がっていると思います。  
また、利用されている方も固定されていると思います。

委員長 現状をしっかりと調査して、統廃合する際には機能が重なるところは集約してもいいのではないのでしょうか。

事務局 公民館をご利用されている方も高齢者がそこで講座を受けたりしています。実態を見ると施設は違いますけれども、行っている中身が重複していたり、機能が重なっているところがあります。

委員長 その辺をしっかりと調べて、次の建て替えなど、戦略を立てるために整理してもらうということですね。

委員 高齢者と子どもと同じ場所に集めて、両方とも成り立つようなやり方というものもあるのではないかと思います。

事務局 そういったことを行っている先進的な事例もあります。同じ建物の中で、機能はお年寄りの老人福祉センター、子どものほうは保育園とか児童センターが複合施設の中で、それぞれが交流をする、そういったことをこれから目指しいければと思っています。

委員長 それでは、医療施設についてはいかがでしょうか。

委員 診療所5つというのは、中山間地ですから、これは減らすわけにはいかないと思うし、地域医療を考えればやりようはないですね。

委員 支所と併設してもらって、全部そこでなんとかなるという形になればいいのではないのでしょうか。

委員長 そうすると、支所の多機能化という話になりますね。医療施設は、特にこれ以外に表現の仕様がなくていいでしょうし。

それでは、行政施設についてはいかがでしょうか。

行政施設は、更新に際しては複合化や多機能化をして、災害時の拠点施設でもあるから、しっかり考えていかなければならないということで、この方針で進めていくということではよろしいですか。

それでは、市営住宅等についてはいかがでしょうか。

公営住宅等ストック総合活用計画に基づき進めていくということで、こちらについてはよろしいですか。

それでは、オリンピック施設についてはいかがでしょうか。

委員 経済効果ということを考えた時には、利用率を上げ、いかにして流入人口を増やす

か、そのためのツールとして、オリンピック施設は、大変大事な位置づけになっていると思います。

委員長 ブランドであることは間違いないです。国際オリンピック委員会での制約はあるのですか。

事務局 制約はあります。例えば、ネーミングライツなど、商業ベースになってしまうとオリンピックマークは付けられなくなります。

委員 例えば、東京オリンピックで、これから国際大会が行われますが、事前合宿地としての誘致というものは、行政が行っているのですか。

事務局 行っています。また、オリンピック施設は建設から 17、8 年ですから、長寿命化を講じつつ、その間の中で、様々な利用者も増やし、中長期的な方向性も同時に検討していくとしています。

委員長 利用の促進を図るため、スポーツの大会だけでなく、観光全体の中で取り入れているったり、お互いに相乗効果が出るような戦略を立てていただければと思います。  
それでは、インフラ施設についてはいかがでしょうか。

事務局 インフラ施設については、道路、橋りょう、公園など、担当課が長寿命化計画を作っています。橋りょうは作成されていますが、それぞれの施設の優先度、老朽度、それを勘案して作っています。こちらでは、建物の長寿命化計画を立て、道路、橋りょう、箱物の何を優先していくのかという調整を図り、長野市としての全体の公共施設の長寿命化計画を検討していくこととなります。

委員長 長寿命化については、橋だと全ていっしょに錆びるわけではないので、サポーターのような巡回者によるソフトも考えているのですか。

事務局 予防保全の視点を入れるということになれば、経費が安くて精度が高い、そういった技術を国土交通省の指導に従って、取り入れて、前倒しで修繕していくという形をとっていきたいと思っています。ただ、橋りょう、道路、公園、それぞれで長寿命化計画を作っていますので、調整しなければならないと思います。

委員 他市では、財源が不足して、壊れたら直すという対症的な方向になったところもありますが、今のところ、そういった考えはないわけですね。

事務局 ないです。

インフラは、ある市で、インフラ、公共施設の箱物のどちらを優先すべきですかというアンケートを実施した際に、7、8割の方が、インフラを優先という回答が出ています。道路、橋りょうなどのほうが一般の公共施設よりも優先的に、長寿命化、安全管理を行うべきだということですので、公共施設のほうは、なるべく総量を縮減して、今まで掛かっていた維持管理費などを道路、橋りょうのほうへ少し移すような形で進めていければと考えています。

委員長 インフラは道路、橋りょう、公園についてですが、上下水道の関係についてはどう

なるのでしょうか。

事務局 対象の範囲の中から企業会計の上下水道局の施設は除くということにしています。ただし、公共施設マネジメントの考え方は相互に尊重して、行っていくということになります。

委員 中山間地域の人が減ると道路などが荒れてきます。そうした場合でも、改修、維持するのか、それとも、無くしてしまう場面も出てくるのでしょうか。

事務局 インフラの道路、橋りょうを減らしていくかは、今の段階では申し上げられません。将来的には、集落がなくなったり、そこまで行く必要がなくなる場合は想定できるかと思いますが、現状では、今あるものを安全に事故なく、管理していくということになります。

委員 長野市は景観が素晴らしいから、それを生かすような修復のやり方とかもあるのではないのでしょうか。道路の総延長が中核市のトップなのだから、何か付加価値を付けられればいいかなと思います。宣伝材料になるようなところはいっぱいあると思いますので、道路自体ではなく、バックの景色とかを生かすようなことも考えていただければと思います。

事務局 インフラの検討の方向性に観光と言葉を入れるようにします。

委員長 全体を通していかがでしょうか。  
それでは、これにて審議を終わらせていただきます。

#### 【開 会】

事務局 第7回検討委員会は4月21日火曜日午後1時半からから開催します。以上をもちまして、「第6回長野市公共施設適正化検討委員会」を閉会します。